中部大学産業経済研究所
設立30周年記念研究発表会

日 時：2012年３月９日（金）10：15〜17：30
場 所：中部大学リサーチセンター２階大会議室

（司会）　おはようございます。足元の悪いところ，朝からお集まりいただきまして，ありがとうございます。時間になりましたので，われわれの会合を始めさせていただきます。

中部大学の産業経済研究所の設立30周年記念研究発表会ということで，この会を設けさせていただきました。最初にわが大学の研究所全体のことを見ておられる，総合学術研究院の院長の後藤副学長からごあいさつをいただきます。

開会挨拶

後 藤 俊 夫（中部大学副学長　総合学術研究院院長）

今日は産業経済研究所の30周年記念にご参加いただきましてありがとうございます。会を始めるに当たって，簡単にあいさつをさせていただきます。

最初に，産業経済研究所30周年おめでとうございます。この産業経済研究所は，中部大学の中では総合工学研究所に次いで古い研究所になるかと思いますが，今まで鈴木先生をはじめとした関係者の努力により，いろいろな研究成果を上げて，発展をされてきたわけです。研究所では本来の研究活動に加えて，紀要の発行や研究会の開催，調査活動などをされてきています。今回も午後には，成果の発表がされることになっています。

中部大学は，教育と同時に研究に対しても力を入れていて，大学として研究所の方にもいろいろな形での支援をしております。また，あまり多いとは言えませんが，研究費等の支援もしてきています。しかし，産業経済研究所の場合は，そういう大学からのサポートに頼るだけではなく，企業等からの外部資金等を確保し，積極的に産学連携を進めていただいております。これは大学としても高く評価しているところであり，本学の研究所の中では，産学連携活動に関しては多分一番進んでいるところだと思っています。ぜひ，今後特徴を生かして，さらに研究活動を展開していっていただきたいと思っております。

私自身の専門は工学の方ですが，工学と経済分野は企業など外の社会との連携が非

常に重要で，大学の中に閉じこもって研究しているのは好ましくありません。外にどんどん出ていって，外と連携することが非常に大事だと感じております。この研究所はそれを認識して，鈴木先生の指導の下にそういうことに進んでいると思います。今後もぜひそういう認識を持って，さらに研究を展開していただきたいと思います。産業経済研究所の今後の一層の発展を祈念しております。ありがとうございました（拍手）。

（司会）　後藤先生，過分なお言葉をいただきましてありがとうございました。30周年記念という段階に達したのも先達の大変なご苦労があってのことです。私は確か９代目の所長です。かなり長く研究所の所長をさせていただいております。そういうことで，自己紹介というよりも，総合司会として自分のことを申し上げました。

今日は記念研究発表会ということですので，記念講演をしていただこうと思います。どういう方に発表していただくか，１年間大変悩んでおりましたが，やはり未来を作るという考え方に基づき，21世紀，前線で戦っている新進気鋭の三菱商事の方をお呼びすることにしました。電気自動車（EV）「i-MiEV」を日本で初めて量産化した三菱自動車と一緒に，現場でその普及に努めている友田雄輔さんをお呼びすることにしました。

友田さんのご経歴ですが，慶應大学を1994年に卒業されておられます。藤沢キャンパスの１期生でいらっしゃいますか。慶應義塾が未来を見据えて造ったキャンパスです。そういう未来志向の大学の教えを背負って三菱商事に入られて，すぐ中国･台湾のご担当になり，台湾に中国語の勉強留学などもして，中国語，英語に堪能な大変国際的な方です。

中国エンジンプロジェクトを担当した後，瀋陽の航天三菱汽車発動機製造有限公司へご出向になられています。これは昨日聞いたことですが，航天とはミサイルを造っている会社だそうです。そこで現場に５年ぐらいおられて，また戻られて，中国・台湾のご担当となり，今は電気自動車事業を推進する部署の課長ということです。

中国に大変お強いのですが，今日はヨーロッパなども含めてお話を伺おうと思います。今ヨーロッパは悩んでおりますが，そういう市場環境の中で仕事をされています。中国の話も少し出るかと思いますが，1時間の講演をお願いしたいと思います。

中部大学は，この電気自動車の研究を産業経済研究所を中心として４年間ずっとやってきました。いろいろな方々にお世話になりながら進めてきましたが，一つの区切りということもあり，友田さんをお呼びしました。よろしくお願いします。